

第3回郡上市市民協働活動審査会 要録

日時：令和4年3月28日（月） 13：00～15：15

場所：産業プラザ4階 交流ホール

出席者：委員 笠野信男、武藤里恵、乾 松幸、上村英二、青木副市長、河合市長公室付部長

事務局 永瀬政策推進課長、上村主任主査、羽土主事

欠席者：なし

1.開会挨拶

（会長から挨拶）

2.魅力ある地域づくり推進事業補助金交付要綱の改正について

（事務局より改正内容について説明）

3.審査会進行・審査資料について

（事務局より進行・審査資料等について説明）

4.審査

①合同会社西和良村（市民活動部門）

申請者 昨年の10月から福祉有償運送を始めた。現在は西和良、和良地域をカバーしながら行っているが、発着が郡上市全体のため白鳥町や高鷲町にも行っている状況。ボランティアタクシーを行っていたが、運転手の拘束時間が長いことから福祉有償運送へ切り替えた。4月1日から市から車両を無償貸与していただけるということで、その車両を使い運営していくが、将来的に北部へのエリア拡大を考えているため今回申請を行った。運転手は現在9名いるが、新たに4名の追加を目指している。障がい者、要支援1・2、要介護の方を対象としている。

会長 民間の自動車学校で資格がとれるのか。

申請者 岐阜県では那加自動車学校、あとは国交省の認可があるところで受けられる。

会長 土日で受けるのが大変なので、費用は高くても一日で受けられるところを

選んだということか。

申請者 そう。みなさん仕事をもってみえるので。

委員① ドライバーは何名？

申請者 9名

委員① 今回でさらに4名増やしていきたいということか。

申請者 実際に動いているのは4名。

会長 私もNPOをやっているが、資格取得は個人のことで、保険というのも車両に関するすることだと思うが、必要経費ではないのか。補助金の対象としてよいか他の審査員の方にも意見を聞きたい。

事務局 申請者からあったように福祉有償運送を始めたばかりで、市民活動を広げるための資格取得や、事業を拡大し持続的に活動していくための費用ということで事務局として申請を受け付けた。

委員② 福祉有償運送の有償の部分は利益としてみなされる可能性が高い。これから税法上の問題も出でくる可能性もある。事業の内容や責任者を明確にして、組織づくりについても気を付けていただきたい。

申請者 西和良まちづくり協議会は任意団体であり、福祉事業を行うには法人格が必要ということで合同会社をつくった。だが、来年度は一般社団法人の非営利型を目指していくことが総会によって決まった。

副会長 4名追加するということだが、今の段階で見込みはあるのか。

申請者 3名はもう決まっている。あと1人は募集をする。

委員③ 会員数は何名か。

申請者 26人

- 委員③ 件数としては。
- 申請者 多い時は月 100 件ぐらい。
- 委員③ 申請書類に収支予算書があるが、補助対象経費関係なく事業全体の収支の見込みはどれくらいか。
- 申請者 30 万あるかないか。この事業のことではないが、この補助金は 3 年間で終了するが、その後のフォローもしていただきたい。また事業を始めるのにあたってどうしても備品を買わないといけない時もある。財源的に厳しい中でなんとか地域のために活動したいという気持ちはあるので、備品購入なども支援していただきたい。

②西乙原自治会（地域課題解決部門）

- 申請者 令和 2 年度から補助金の交付を受け活動をしてきたが、令和 4 年度も残っているところがあるのでそこを行いたい。下草が生えても伸びない防草ネットを敷いて、各班のやりたいところを重点的に行う。道路のわきに花を植える活動（花いっぱい運動）もしている、花で地域をキレイにしようという機運は高まっている。各家庭でシバザクラを植えるところも増えてきた。協働で作業し、地域を守っていこうという気持ちが大きくなってきている。今回の補助金をいただいて、地域の皆さんがこういった気持ちになってきているので感謝している。令和 4 年度も前年度と同じように活動を進めていきたい。
- 会長 令和 4 年度で防草シート・植え付けの作業は完了するというのでいいか。
- 申請者 今年度で終了予定である。
- 副会長 事業効果のところをみると、事業を通じ郷土愛が生まれ地域の後継者が育つとあるが、中学生・高校生の参加があるといいと思う。
- 申請者 昨年スイセンやヒガンバナの球根を植えていたときは大人ばかりだったが、大人についてきた子どもも行ってた。昨年度は積極的に子どもの参加は呼び掛けていなかったが、今年度は子ども会等に呼び掛けてやっていきたい。

③チーム「宝箱」(市民活動部門)

申請者 令和4年度で3年目になる。令和6年に全国障がい者芸術文化祭が岐阜県にやってくるということで、当初からそこを目標にやってきた。コロナ禍ということで思うようにいかないこともあったが、みずほ園でのシルクスクリーンの作業が確立して、現在もその作業で工賃のアップにつながっている。蚕を育ててそこから糸を紡いで織物を作ることも行ってきた。令和4年度も引き続き行っていきたい。彼ら彼女らの著作権を守る点においても勉強し、彼女たちにお金が回るように、障がい者のアートを守っていくというのを郡上でやっていきたい。予算については、今年度よりも少なくなっている。内容についてはシルクスクリーンの版を作るお金、それを販売する布代、アーティストさんへの委託料を計上した。

委員② 今年度は越前屋で展示を行ったのか。

申請者 今年度は行っていないが、昨年2月に越前屋で行った。実績としては500人以上のお客さんが入り、12万円売り上げた。そこからその作品を見て美術館でコラボして作品を展示しないかという話もいただいた。

委員① 著作権の話を具体的に。

申請者 昼休みに書いてもらったものを落書きと呼んで、ゴミ箱に捨てることもあったが、一つ一つが著作権のあるものだと勉強をして、今はクリアファイルに保管をしている。また、絵を使用することについて契約書を結ぶようにした。

委員① 令和4年で3年目ということで、この補助金がなくなった場合代わりにどんなお金があがってくるか。

申請者 シルクスクリーンの作業する台や指導料へ補助金を使ってきたが、シルクスクリーンについては私たちの手から離れてみずほ園で作業ができるよう確立できてきたので、そこで商品ができていけばやっていけると思う。今後は仲間も増えたとし、協力してくれる企業もついてきたので自分たちで頑張っていけたらと思う。

委員② シルクスクリーンの作成したものを売るだけでなく、ホームページの壁紙や商品の包装紙に使うなど、加工次第では値打ちのある商品になる。多様

な取り口を考えていけたらいいと思う。

申請者 包装紙については初めの年に行おうとしたができなかったので、包装紙は温めているところ。シルクスクリーンについては大量には作れないが、この事業に入ってすぐレジ袋が有料になったためエコバックはコンスタントに売れている。デザイン性が高いものが全国で出ているのでいろいろ考えていきたい。

副会長 彼らへ収入として還元はされたのか。

申請者 今いくらもらっているかはわからないが、みずほ園の下請けの作業賃に加えてシルクスクリーンで作成したものや鼻緒を作った売り上げが入っている。宝箱への直接の収入は少ないが、みずほ園に入る収入は上がっていると考えられる。

会長 令和6年の芸術文化祭に是非つないでいただければと思う。

④郡上八幡アートプロジェクト（市民活動部門）

申請者 3年目の申請になる。郡上の伝統や文化を受け継ぎながら現在の感性を織り交ぜて新しい文化、芸術を発信していく場を作っていこうという思いをもって郡上市民が中心となってできた団体になる。事業を始めた1年目からコロナの影響をうけて、外から人を呼ぶことが難しい状況が続いている。そのため、地域の人にまずは知ってもらうことに重点をおき取り組んできた。2年目では3つ大きく行った。1つ目は現代アートの展覧会。市外からアーティストさんを呼び、郡上で感じたことを作品にしてもらう。2つ目はアートスクール。見るだけでなく作家さんがどう作っているか、どんなことを考えて作っているかに触れられるワークショップを行った。実際に体験したり、トークショーを行ったりしている。3つ目は、会員の1人にスポットを当てて地域の人に知ってもらうための展示。郡上八幡アートプロジェクト11名人数がいるが、そのうちの1人がフラワーアーティストとして活動しており、インスタグラムで1万8千人ファンがいる。

現代アートの力を借りて、ワークショップやトークイベントで交流の場を設けながら地域の人と何か新しいものをつくっていきたいと考えている。

予算については、昨年より予算額が増えている状況。作家さんの作品をより良い状況で展示するための会場の装飾や、学校にチラシを置きたいためチラシ作成費を計上した。

昨年度も補助金以外の部分は会費持ち出しのため、継続性について指摘されたが、企業の助成金にも応募をしていこうと思っている。また会員を増やすことも考えている。

委員① 会員 11 人で 40 万を賄っていくということでいいか。

申請者 そう。会長、副会長の負担が大きい。

委員① これからの継続性を考えると、協賛がないと厳しいのでは。

申請者 自分たちの活動が知られていないのが反省点。応援をしてくれる人を増やしていけるように頑張りたい。

委員② どうやって続けていくか、広めていくかが難しい。協賛を増やしたり、展示する場所を市内全体に広げたりするなどを考えていかないと。

申請者 ご指摘のとおりである。展示の場所を変えようか考えているところ。また見てくれる方を絞らないために無料で開放しているが、入場料を取ることも考えている。

委員③ イベント全体で何人くらい訪れるのか。

申請者 ワークショップについては 1 回 10 人くらいで、50 回程行ったので 500 人はいらっしまったと思う。

委員③ それだけお客さんがみえるのであれば、仮に有料化となればある程度の収益になるのでは。

申請者 観光の方は他の体験をしながらの 500 円であれば払いやすいと思うが、市民の方が少なくなるのではないかが不安なところ。ただ、お金を払ってでも見たいと思われるものを提供できるのも大事なと思う。

⑤一般社団法人長良川カンパニー完熟堆肥づくり部会（市民活動部門）

申請者 今年度は、大和町フィードミュージアムで 2 人の講師の方を招いて、なぜ郡上市で行うのか、完熟堆肥がどのように環境に影響を与えるのかについて講演会を開催した。また、13 世帯 3 事業者と完熟堆肥作りをスタートさせた。

この4月に堆肥が完成する予定。令和4年度は、完熟堆肥が環境にとって良い理由や作り方をまとめた小冊子を作成して、今後の普及活動と事業者さんとの連携を深めていければと思い申請をした。予算については、小冊子を作るうえで昨年度づくり方はわかったが、実際作った時の科学的根拠や周知の仕方についてアドバイザーに入っていただく費用。ななしんぼで小冊子の情報編集を行っていただく費用を予算として計上した。

会長 実際コンポストを作っているのは大和の道の駅か。

申請者 行っているのは大和町牧地区の公民館の近くで、堆肥舎を仮で設置している状況。堆肥づくりの工程として生ごみを乾燥させ1か月ほど寝かせて発酵、堆肥舎へ各家庭から持ってきて3~4ヶ月再発酵させる。その3~4ヶ月の間は大和の堆肥舎で行っている。

会長 堆肥をつくるのに専用の箱があるのか。

申請者 箱自体はホームセンターで売っているものだが、それを加工して使っている。

委員② 実証実験の目的は何か。完熟堆肥を作って野菜の生産につなげるのが目的か、農業経営のところまで見越しているのか。

申請者 堆肥を作れる場所の確保と農家さんに使ってもらい、循環のシステムを作るのが目的。生ごみの焼却コストの削減も目標。

委員② 郡上市の農業生産をこういう風に方向付けしたらどうかという提案までではないということか。

申請者 農家さんへのヒアリングが行えてない状態。やっと堆肥ができた段階。農家さんの課題をしっかりと聞いたうえで循環型の中に組み込んでいきたい。

委員② 実際の生産段階で活用しようとするとなくさんの課題が出てくると思う。

副会長 堆肥が完成するまでに匂いや虫の発生が少ないと資料にあるが、実際に行ってみてどうか。

申請者 冬の時期というのがあるが、前で洗濯物を干しても気にならないレベル。虫の発生も気にならない程度。苦情なども特にない。

委員③ 13世帯、3事業者ということだが、令和4年度についても同じ規模で行うのか。

申請者 堆肥舎のキャパもあり、令和4年度も引き続き13世帯で考えている。

会長 最終的なターゲットとしては一般家庭か、農家さんか。

申請者 最終的には農家さんに使ってもらうのを考えている。

委員② 郡上市も、北部の給食センターに堆肥化の施設を購入し動き出したところ。個人的には何らかのエビデンスを出していただけるのを期待している。

5. 閉会